

帯広市立栄小学校 いじめ防止基本方針

平成 26 年 3 月策定

平成 30 年 4 月改訂

<はじめに>

帯広市立栄小学校では、「いじめ防止対策推進法」第 13 条に規定されている「学校は、いじめ防止基本方針または、地方いじめ防止基本方針を参酌し、その学校の実情に応じ、当該学校におけるいじめの防止等のための対策に関する基本的な方針を定めるものとする。」に基づき、次のような基本理念をもって、いじめの未然防止に取り組む。

1 いじめの定義

「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」とする。
なお、起こった場所は学校の内外を問わない。 <文部科学省>

「いじめ」を「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校（※）に在籍している等、当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」と定義する。

※小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校（幼稚部を除く。）
<いじめ防止対策推進法におけるいじめの定義>

2 いじめについての基本的な考え

(1) いじめの解消に向けて

「いじめ」は決して許されることではなく、どの学校でも、どの子どもにもおこりうるものであり、その解消に向けて一丸となって取り組んでいく。

(2) 問題発生時の指導及び組織

「いじめ」発生時には、何よりも被害者を守るという意識に立ち、加害者に対しても自らの行動を振り返らせ、「豊かな人間関係」や「健やかな心の育成」を図るため、粘り強く教育的指導を行う。また、**いじめを発見した教職員が問題を抱え込むことがないように、「いじめ防止対策委員会」を中心とした情報共有の体制をつくり、実効性の高い取組を行う。**

プライバシーに配慮しながら、教育委員会等の関係機関・異校種間や学校間への情報共有を速やかに行う。

<いじめ防止対策委員会>

構成員

校長、教頭、指導部担当、養護教諭、関係学級担任、特別支援学級担当
(教育委員会・専門機関 (SSw など)・エリアファミリーを活用した異校種関係者)

活動内容

- ・いじめの防止に関すること
- ・いじめの早期発見に関すること
- ・いじめ事案に対する対応に関すること
- ・いじめ対応能力向上に向けた研修・「いじめ未然防止プログラム」を活用した研修

開催日程

- ・学期2回定例会議を開催
- ・いじめ事案発生時等必要に応じて開催

(3) 児童生徒や保護者・地域に対する情報発信と意識啓発、意見聴取

学校HPや学校だより等を利用して公表し、適宜、情報発信を行う。また、必要に応じて、意識啓発のための取組や意見聴取のための取組を企画する。

情報モラル教育の充実を図る。家庭に向けてフィルタリングの利用や家庭でのルールづくりなどスマートフォンを持たせる際の保護者の責務を周知する。

3 いじめ未然防止・早期発見のための取組

(1) いじめの把握・早期発見

教師による日常の観察（朝の出席確認等）を重視するとともに、北海道教育委員会のアンケート調査に加え、本市独自のアンケート調査を実施する。アンケート調査の工夫を行う。（別表1）

また、担任が、一人一人の児童生徒の心のサインをキャッチするため、学校独自のアンケート調査や教育相談週間において、児童生徒と面談を行うなど状況をきめ細かく把握する。

(2) 校内研修及び日常指導について

校内研修や職員会議において、いじめに関する各種資料等をもとに全教職員が危機感を共有し、小さな予兆やサインを見逃さない校内体制を構築するとともに「つく指導」に心がける。また、外部の専門家を招いての講演会や外部講師を招いての授業を積極的に取り入れたり、指導内容のプログラム化について理解を深める。

教職員のいじめ対応能力の向上を図る。

ネットいじめへの対応の充実

(3) 校内環境づくり

子どもの居場所づくり、絆づくりをすすめ、いじめが起きにくい環境をつくる。また、ストレスを生まない環境作りに努め、ストレスをコントロールする様々な方法について研修する。

(4) 学級経営について

児童の実態を十分に把握し、一人一人の児童が成就感や充実感をもてる学級経営に努める。

(5) 年間指導計画に位置付いた指導の充実

年間計画に位置づけた道徳の時間や学級活動等において「自他の生命」を大切にする指導や、多様な価値観・異文化などを理解させる指導の充実を図るなど「いじめ根絶」のための指導を計画的・継続的に行う。

(6) 道徳教育の充実

道徳の授業により、道徳的判断力を育成し、いじめを未然に防止する。

児童の心を揺さぶる教材や資料を活用し、おもいやりの心ややさしさを育てる。

(7) 児童生徒の理解・支援

児童生徒の人間関係を客観的に捉えるため、「子ども理解支援ツール ほっと」等を活用し、日常観察で把握しきれない児童生徒の小さなサインを見つける。

(8) 児童会・生徒会の取組

児童生徒自らが行動する意識を高める工夫を行い、全市的な「いじめ・非行防止サミット」へ積極的に参加する。また、校内においては児童会・生徒会において「相談箱」を設置するなどいじめ撲滅の取組を充実させる。

(9) 相談体制の充実及び相談員等との連携を深める

教職員以外の「心の教室相談員や家庭訪問相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー」等の相談窓口を児童生徒や保護者に周知し、帯広市教育委員会と連携し、校内の相談体制の充実に努める。

(10) 学校評価

学校評価に「いじめの防止」等に関する取組項目を設定し、学校として定期的な意識向上を図るとともに、取組の不断の見直しを行う。

(11) 教職員の意識

すべての児童生徒が授業場面で活躍できるための授業改善に心がけ、学力向上やいじめ未然防止の観点から児童生徒一人一人が授業において生かされる指導に努める。

(12) 年間計画の策定

校内における取組内容の検証を行うため、調査実施の実施時期、会議の開催時期、それを踏まえた校内研修会等の時期について決定する。

<年間計画>

4月	本年度の「学校いじめ防止基本方針」の周知
5月	第1回いじめ防止対策委員会（実態把握）
7月	アンケート調査の実施・分析・対応
9月	第2回いじめ防止対策委員会（2学期の方針について）
11月	アンケート調査の実施・分析・対応
1月	第3回いじめ防止対策委員会（3学期の方針について）
2月	アンケート調査の実施・分析・対応
3月	第4回いじめ防止対策委員会（今年度の成果と課題について）

4 いじめ発生時における取組

(1) いじめを認知した場合は、速やかに「いじめ防止対策委員会」を開催し、第1に被害者を守る視点に立ち、学校組織として全力で対応に当たる。

(2) 事実確認が容易でない場合は、保護者の確認のもと、臨時のアンケートや教育相談を実施するなど迅速に状況把握を行い、学校の取り組みに関する記録化を行う。

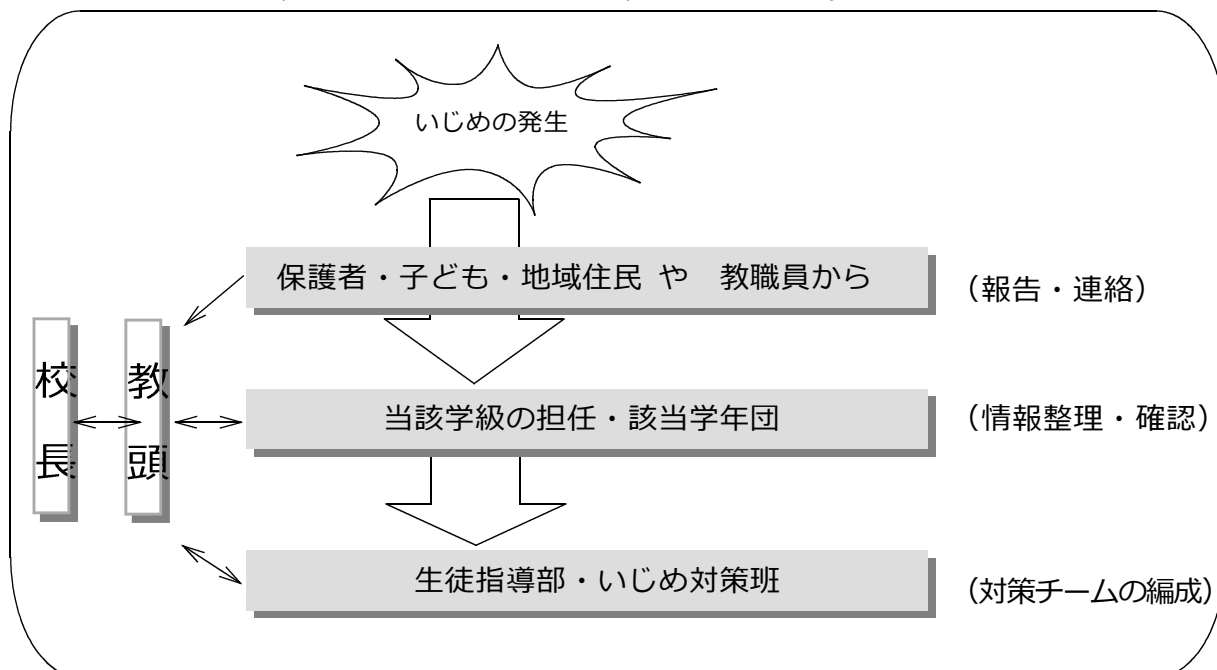
(3) いじめを受けた生徒が学校へ登校できない状況や教室には入れない状況が生じた場合もあるので、学習サポートの実施や心理カウンセリング等、児童生徒や保護者の立場に立ったきめ細やかな教育的配慮を行う。

(4) いじめを行った児童生徒に対しては、複数の教師による意図的計画的な指導を行い、加えて道徳の時間等において、傍観者となり得る児童生徒に対して学級全体指導を行う。

(5) いじめを行った児童生徒の保護者に対しては、いじめの定義を含め学校の指導に対して理解を得るとともに、家庭における指導に対して助言を行う。

- (6) いじめを受けた家庭に対し、いじめの解決に向けた学校の取組状況について、適切に情報提供を行う。
- (7) 犯罪行為であると考えられる場合は、直ちに教育委員会と連携して関係機関(警察等)と組織的に対応する体制を取る。

5 いじめ発生時の校内体制（いじめ防止対策委員会の体制）



【 管理職・担任・学年団・養護教諭、生徒指導部 】
 + 【関係機関・専門機関・異校種関係者】による対応

= 重大・緊急いじめ対応 =

- いじめ防止対策委員会… 情報収集（アンケート、聞き取り等）
 指導体制の確認（チーム編成、指導方針の決定）
 関係機関との連携（市教委・警察・児相等）
 専門機関等の連携を深める
 （スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー
 心の教室相談員、市教委教育相談員等）

- 緊急職員会議…情報の共有、共通認識・共通対応、組織的支援